

～今月の読み物～

江東シーサイドマラソン大会

森林商事(株)

森林 慎介

大会の歴史と概要

毎年11月の最終日曜日は、江東シーサイドマラソン大会が開催される日である。昭和56年11月29日に第1回大会が開催されて、今年(平成29年)で第37回目を迎える歴史と伝統のある大会である。ハーフの部(21.0975km)と10kmの部に分かれていて、一般男子の部(16～49歳)、一般女子の部(16～49歳)、壮年男子の部(50歳以上)、壮年女子の部(50歳以上)というように年齢別にクラス分けされている。ハーフの部は、2,400名 10kmの部は、1,600名のランナーがエントリーし、日頃の健脚を披露する舞台となっている。

参加資格は、国籍は問わず16歳以上の健康で、ハーフの部は2時間30分以内、10kmの部は1時間15分以内に完走できる方となっている。参加申込は、だいたい毎年8月上旬インターネットもしくは郵送にて必要事項(氏名・生年月日・自宅住所・TEL・申告タイム・Tシャツサイズ)を記載し応募となり、定員オーバーの場合は抽選にて決定される。8月の下旬に抽選結果が通知され、抽選に当たると参加費(3,500円)を振り込む。レース2週間前には、注意事項記載書類・ゼッケン(計測用リグ付)・参加賞引換券・荷物預かり証等が自宅に送られてくる。これで準備は万端となる。

当日の様とコース紹介

スタートとゴール地点は、新木場駅からほど近い江東区夢の島競技場になっている。当日は受付に参加賞引換券を提出するとTシャツとプログラムが渡される。また、協賛企業からソックスやスポーツドリンクなども配布されている。参加者は準備体操やジョギングなどをしながらスタート時間が来るのを待っている。8時40分から開会式を行い、ハーフの部は9時15分、10kmの部は9時45分スタートとなる。皆さん緊張と興奮のためか、スタート時間の



参加賞のTシャツ(毎年デザインが変わる)



新木場の勇者達(木材業者)

15分前から整列し始める。ピストルの号砲が鳴るといよいよスタートとなる。夢の島競技場のトラックを約一周し、明治通りを亀戸方面に向かって北上していく。スタート直後なので大勢のランナーが3車線一杯に広がって走っていく様は壮観である。徐々に走路を絞っていくと走者の列が縦長に移行していく。明治通りを左折し、いよいよメイン通りの永代通り(約2km)に足を踏み入れていく。応援してくれる沿道の観客の数が飛躍的に増加し、知り合いの顔もチラチラ見えてくる。つつい力が入ってしまい、ペースを上げてしまうと後でとんでもないことになってしまう。ここは冷静に自分のペースを守らなくてはならない。私も初めて参加したときは、大勢のランナーのペースと沿道の声援を受け、前半をオーバーペースで突っ込み、後半は足が止まり、棄権しようかと思ったほどである。なんとかペースを維持し、永代通りを左折し三ツ目通りに入っていく。普段はあまり感じないが、走ってみると三ツ目通りは橋が多くアップダウンの連続で結構辛いものである。途中、最初の関門である5km地点が見えてくる。スタートから35分以内に通過しないと失格となる。1kmを7分以内で走らないといけない。スタート時に後方にいるとスタート地点を通過するのに1分以上(ハーフだと2分以上)掛かり、ギリギリの持ちタイムの選手には非常に厳しい足切ラインとなる。制限時間内に走れなければ、ゼッケンに付いている計測用リグを取り外して返却しなければならない。そしてバスに乗り込み、夢の島競技場に送り届けられる。我々はこのバスを護送車と呼ん

でいる。5km地点を無事通過すると後は湾岸道路を目指していくことになる。湾岸道路の少し手前に給水所があり(7km地点)、ここで水分補給をし、スポンジで身体を冷やしていく。さあ、あと3kmでゴールとなる。湾岸道路ではほとんど沿道の応援がなく、周りの選手と自分自身との戦いになる。東洋大学の陸上部ではないが、一分一秒を削り出していく心境である。やっと夢の島競技場に到着したと思ったら、競技場の外周を走らされ残り300mの所からトラックに戻らされる。マイクを使った声援と観客席からの応援、そして電光掲示板のタイムを見て最後の力を振り絞りゴールテープをきる。ゴール後すぐ計測用リグを取り外し、記録証引換所に持参すると記録証(氏名・ゼッケンナンバー・種目・タイム・順



10km部 スタートラインに整列 (1,457名)



ピストルの号砲でスタート

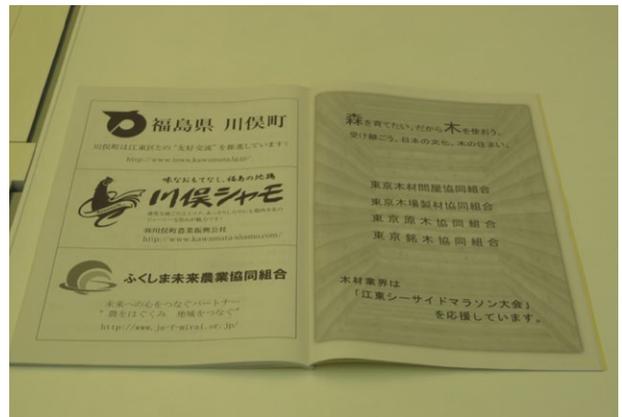


競技場をあとにするランナー達

位)を発行してもらえます。12時より閉会式が行われ、成績発表並びに表彰式が行われる。ハーフは一般の部は、1～30位、壮年の部は1～15位、10kmの部は一般の部は、1～10位、壮年の部は、1～5位まで表彰される。また、特別賞として最高齢者や遠距離出場者(北海道や沖縄から参加)や20回出場(完走)者の表彰もある。過去の大会で木材業界から二人の優勝者が出ている。一人は、第31回大会(平成23年)壮年男子ハーフの部で泰平木材の渡邊一明氏が1時間22分36秒のタイムで優勝している。もう一人は、第36回大会(平成28年)一般男子10kmの部で、浅野製材の後和直樹氏が36分00秒のタイムで優勝している。このシーサイドマラソンに我が木材組合4団体(問屋・製材・原木・銘木)が協賛企業として名を連ねていることは、非常にありがたいことです。また、大会実行委員の方や多くのボランティアの方のおかげで安全で楽しく走ることができ、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



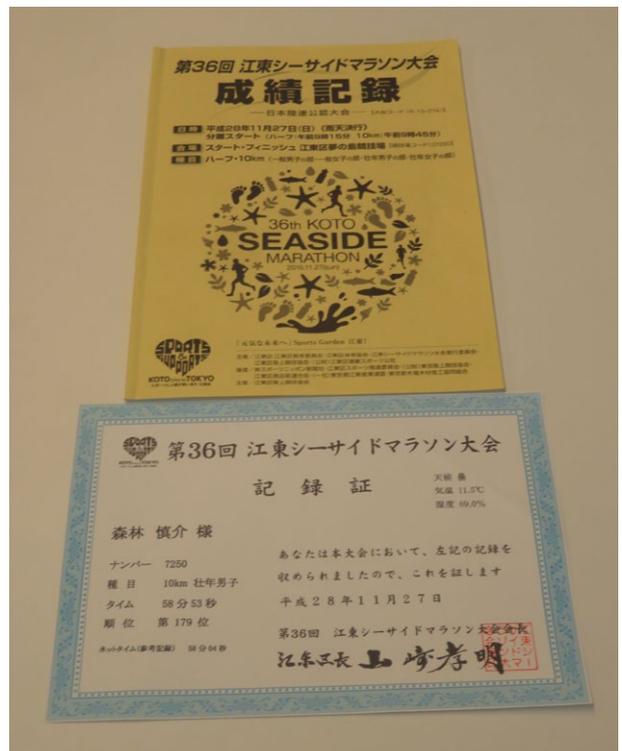
閉会式&表彰式



協賛企業広告(新木場の木材組合4団体)

レース後の楽しみ

12月になると成績記録一覧表が自宅に送られてくる。完走者全員の記録と順位が掲載されている。そして江東ケーブルテレビでシーサイドマラソン全選手ゴールシーンの放映が始まる。成績表を見ながら知人や自分のゴールシーンを何度も見て、一人悦に浸っている。今年はどんなドラマが生まれるか楽しみです。皆様も参加してみたいはいかがでしょうか？



当日発行される記録証と後日送付される成績記録(一覧表)